

江 野 区



江野公会堂



江野区の写真地図

至竹野

至豊岡市街

☆地区の云われ

江野地区は、四方を山に囲まれていて、大昔は湖の底だったらしい。

第8代孝元天皇の治世の紀元前220年頃に小江宿禰命^{おえのすくねのみこと}と豊玉彦命^{とよたまひこのみこと}により大浜川の半坂の部分を開いて排水し、原野に開拓したとの言い伝えがある。

山々が連なる山間地で一定開けた野原の事を『郷野（ごうの）』と呼称するらしく、他の地方でもいくつかあるらしい。また、江野区と伊賀谷区は、平家の落武者の末裔の集落との伝説がある。

江戸時代には生野代官、豊岡代官、京極氏、湯島代官、久美浜代官の統治下にあった。

当地区は、江戸時代には、『郷野（ごうの）村』とされているが、明治時代から『江野（ごうの）村』と表記されるようになった。



小江神社



徳養寺



江野の大樫

〈地区の紹介〉

江野区は豊岡の市街地から竹野に通じる国道178号線沿にある50戸程の集落。

四方を山に囲まれ当区の山林面積は、旧豊岡市内で2番目の広さ。そのため昔は炭焼きが盛んで産炭地。



江野そば店

『江野そば』が有名だが、木炭の材料となる雑木伐採後の山斜面を焼畑にして、『そば』を栽培したのが由来。炭焼きは廃れたが、『江野そば』は残り、国道沿いにそばの店が出されている。

地区の中心部に曹洞宗の徳養寺、小江神社がある。神社境内の一角の池の淵には三百年の時を刻んだ県指定天然記念物の『大樫』の巨木がある。池には矢次山の中腹の岩場から出る石清水を引き入れ、美味しい水を持ち帰れるようになっている。